

10月16日(木) 14:00~15:00 第2会場 マリオス18階 188

ケア環境② 【座長】伊藤 香織 (介護老人保健施設やまぼうし)

第1群: 101 入所

第2群: 204 工夫・新たな取り組み

第3群: N3361 ケア環境 ユニットケア

くつろげる環境作り

介護老人保健施設 リハビリタウンくじ

渡辺 由香里

私達は昨年末より自分達が出来るユニットケアについて話し合い実践してきた。少しでも家庭的な雰囲気作りなど、どのような方法があるか意見を出し合い取り入れてきた。その過程と入居者の変化について報告する。

【はじめに】

私達は昨年末より自分達が出来るユニットケアについて話し合い実践してきた。少しでも家庭的な雰囲気に近づけるためには、どのような方法があるか意見を出し合い取り入れてきた。取り組んできた内容と入居者の変化について報告する。

【手法】

- 1) ユニットらしい環境作り ・ 玄関の作成 ・ 違和感のない空間作り ・ 掲示物、時計の高さ ・ 自分の部屋と感ずる居室作り ・ 家族とくつろげるスペース作り
- 2) 個人の時間に合わせたケアの実践
- 3) 月1回のユニットミーティング

【実施・結果】

- 1) ユニットの入り口を玄関のようにしたことで自然と「ってきます、いってらっしゃい、ただいま、おかえり」という挨拶が聞こえるようになった。また、家族や他ユニットの入居者に対して『我が家』に来客がきたときのように「いらっしゃい」と言葉を掛ける姿が見られるようになった。普通家庭にない物は、なるべく目に触れないようにカバーを付けたりトートバックを使用し違和感を与えないように工夫した。掲示物・時計の高さを入居者の目線に合わせて統一した。入居者の見やすい高さに掲示することで興味を示すようになった。時計を見て時間を確認する仕草が多く見られ、「〇時になったらリハビリだ、〇時からお風呂だ」と時間を意識した行動がみられるようになった。居室はプライベート空間として扉は開けっ放しにせず個人の空間であることを大切にしたい。初めは転倒や転落などのリスクがあるのでは…と考えたが、自分だけの空間とすることで以前より落ち着いた様子で過ごされるようになった。また家族の協力を得て個人の私物（たんす、写真立て、ぬいぐるみ）を持ってきていただいたことで個性のある、その人らしい部屋に近づけることが出来た。居室内にはコルクボードを設置し担当職員の紹介を掲示すると共にお孫さんの写真や家族写真、絵画などを自由に貼っていただきたいと家族に依頼した。一日に何度もその写真を嬉しそうに眺める姿が見られるようになった。ホール内に家族とくつろげるようテーブル、ソファを配置した。面会時には会話を楽しめたり一緒に雑誌を眺めたりされている。
- 2) 起床は「起きたい」という本人の意思に合わせて行うようにした。以前は業務として一斉一律に行っていたが本人の希望に添うように心掛けたことで起床後、表情も明るく活動的に過ごされるようになった。「今、これをやる時間だからやりましょう」ではなく、本人の気分や意思を尊重したケアを心掛けることにより生活にメリハリが生まれ有意義な一日の流れに繋げることが出来た。
- 3) 月一回のユニットミーティングを開催し入居者の状態の変化・気付きなどを報告し合い専門職からの意見をもらいながら、より良い支援を行えるよう取り組んでいる。疑問に感じていることなど意見を出し合い話し合うことで情報を共有し統一したケアに繋げることが出来ている。

【おわりに】

当初は「家庭的な雰囲気の中で生活してもらいたい」という思いから始めた環境整備であったが取り組んでいく中で徐々にスタッフ一人ひとりの意識にも変化がみられた。また「その人らしい生活」を継続するためには家族の協力が必要不可欠であり今回の取り組みの中で以前よりも家族と関わる機会が増え「その人らしい生活」という1つの同じ目標に向かい、より良い関係性が築けた。今後も継続して入居者一人ひとりの個性・生活リズムに添ったケアを提供し、その人らしく過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。『この家(ユニット)に引っ越してきて良かった』と思っただけのような環境作りを出来ることから一つずつ行っていきたい。